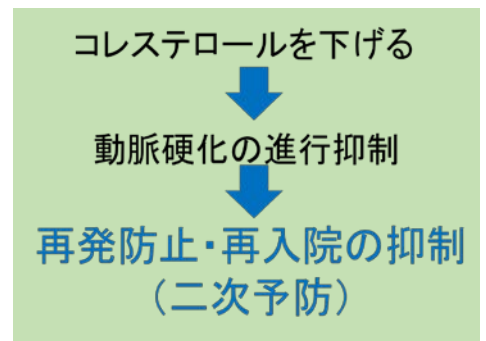


* コレステロールを下げる治療薬 *

動脈硬化を進行させない効果があり、心臓病の予防によく使用されます

【スタチン系(一部)】		【その他(一部)】	
クレストール	アトルバスタチン	ベザトール	エパデール
			

脂質異常症というのは動脈硬化の危険因子のひとつです。そのため心臓病をお持ちの方は再発防止・再入院を抑制するという二次予防を行う必要があります。心臓病の予防でかなりの頻度で使用されるのが、スタチン系といわれる薬です。このタイプの薬はコレステロール低下作用だけでなく、抗動脈硬化作用も合わせもっていることが最近の臨床試験などで明らかになってきており、心臓病の二次予防に非常に重要な薬となっています。



	脂質の目標値 (mg/dL)		
	LDL コレステロール	HDL コレステロール	中性脂肪
一次予防 (通常)	160未満	40以上	150未満
二次予防 (冠動脈疾患 の既往)	100未満		

コレステロール低くないけど、飲む必要あるの？と思われたことある方もいらっしゃるかもしれません。心臓病の再発予防(二次予防)においては、正常値よりもさらに下げる場合があります。ですので「あんまりコレステロール高くないから、薬やめよう」と自己判断で中止することは避けて下さい。

【コレステロールを下げる薬の副作用】

横紋筋融解症

初期症状: 筋肉痛、脱力感、褐色尿

横紋筋融解症の特徴と間違いやすい症状

特徴	間違いやすい症状
四肢の脱力 両側性。 立ち上がれない、歩けない、 荷物を持たない、力が入らない等 必ずしも痛みを伴わない	局所的な筋肉痛 つまむと痛い 関節痛 指、手、肘、足、膝など。 特に片側性の場合
褐色尿(コーラ様) ミオグロビンの尿中排泄による	腰痛 片側性のしびれ

横紋筋というのは筋肉の一種で、それが障害されるのが横紋筋融解症です。これが起こった場合は障害された筋肉の成分が血液中に流れだし、自覚症状としては、筋肉痛や脱力感、尿が赤くなるという症状があらわれます。もちろんこの副作用の頻度というのは非常に少ないのですが、重症になると腎不全になるなど危険ですので、早期発見し、対処することが重要になります。

自覚症状に気が付かれた場合は、早急に主治医の先生にご相談ください。